

愛南マダイ応援隊 ついにV

松山大生に地域づくり・交流大賞

大学生や専門学校生が農山漁村地域を元気にする取り組みを発表する第4回学生地域づくり・交流大賞（一般社団法人全国農協観光協会主催）で、松山大の学生24人をつくる愛南

も一歩及ばず優秀賞だったが、3度目の挑戦で悲願の頂点に立った。

応援隊は2020年結成。愛南町に足を運んで住民と交流しながら、交流サイト（SNS）の活用といった学生ならではの視点で特産マダイの消費拡大などに取り組んでいる。新型コロナウイルスの5類移行後

は対面での販売やPRにも注力。愛南の魅力を広く発信している。同大賞には第2回から参加。今回は10校の応募の中から書面での1次審査を通過し、2月9日に東京で開催された4校による最終審査



SNS発信や対面販売 大物掲げて活動紹介

学生地域づくり・交流大賞で大賞に輝いた松山大の愛南マダイ応援隊メンバー

会に臨んだ。応援隊は3年徳弘あやさん（22）と1年清水穂乃さん（19）が登壇。2年徳永恭一朗さん（20）と1年山本あいさん（19）がサポートした。

東京の百貨店で愛南町のマダイをPRしたほか、特産のかんきつ「愛南ゴールド」を使ったフルーツポンチを松山市と八幡浜市の土曜夜市で販売したことを紹介。重さ2・5kgの大きなマダイを掲げて発表するなどプレゼンテーションにも磨きかけた。

4人は「質疑応答で、審査

員が関心を持ってくれていると感じた」と振り返る。「一番の目標は先輩たちが思い続けていた海外へのマダイ販売」と今後を見据える徳永さん。徳弘さんは「今まで着実に積み重ねてきたことを後輩たちに引き継いでいきたい」と抱負を述べた。応援隊は、2月にオンラインで3チームが競った社会人基礎力育成グランプリ（社会人基礎力育成協議会主催）の中国・四国地区予選大会で最優秀に次ぐ優秀賞と審査員特別賞をダブル受賞。メンバーの一人として出場した2年木村哲郎さん（20）は「賞を二つも取れるとは思っていなかったのですね」と語った。

（杉本賢司）



最終審査会でマダイの実物を掲げて取り組みを発表する徳弘さん（左）と清水さん（松山大提供）